

新型研磨機の導入による 中価格帯シェアNO.1ブランドへの挑戦

AKASEはウォールナット無垢（むく）材などを使用したダイニングテーブルやソファなどを生産、販売する。大きな特長は顧客が樹種やサイズ、仕様などを選択する受注生産方式を取り入れていることだ。木材の加工も自社で手がけ、大型の木板を研磨する装置を導入。ダイニングテーブルの製品群を拡充し、販売本数を2倍に拡大した。

会社概況

オリジナルブランド家具が主力製品

アカセ木工所として1961年に岡山県笠岡市で創業し、タンスなどの婚礼家具を主に生産した。1972年に株式会社アカセ木工として法人化。1981年には現在の本社工場を構える岡山県里庄町に移転し、生産体制を拡充した。1990年代後半からウォールナット無垢材を使ったテーブル、ソファなど新製品を発売し、婚礼家具主体の製品構成を変えていく。

現在は2006年に立ち上げたオリジナルブランド「Master Wal」が主力製品。30歳代から40歳代のアップーミドルクラス向けにテーブルやソファなどを受注生産する。東京など全国8カ所に直営店を置くほか、2年前から他社の家具メーカーと提携、販路を拡大している。



1981年に現在の場所に本社を移転

事業内容

各工程に熟練社員を配置

顧客は樹種をはじめ、サイズや仕様などを選ぶ。ダイニングテーブル一つとっても樹種はウォールナット、ホワイトオークなど複数あり、その上で幅や長さ、脚部の加工法などを選択する。ソファに使う皮も日本製、イタリア製など複数用意している。社員はさまざまな知識を習得する必要があり「定期的に研修を開いている」（経営管理部の峰山乃副部長）。

生産は多品種少量となる。工場では約90人の社員が勤務。木板の加工や組み立て、クッションなどの縫製、ベッドのマットレス生産と社内に多くの生産部門を整備し、多品種少量生産に対応している。各部門には熟練の技を持つ社員を配置し、付加価値の高い家具を生産する。



ウォールナット無垢材を使ったダイニングテーブル

事業成果

ダイニングテーブルの売上が2倍に

ものづくり補助金を活用し、新型の木材研削・研磨機を2018年に導入した。AKASEは米国から調達したウォールナットなどの木板を社内で加工する。一枚一枚検品し、節の位置や大きさを確認して切断。その後、部材加工や仕上げ研磨、オイル塗装といった工程を経て、ようやく組み立てに移る。

導入した装置は幅130センチメートルまで研磨でき、従来装置に比べて大型の木板を機械加工できるようになった。主力製品であるダイニングテーブルの製品群拡充につなげ、現在の最大幅は110センチメートル。七つのサイズに製品群を拡充し、2020年度の売上本数は約7000本と2017年度に比べて2倍に増えている。



大型の研磨機を導入し生産性向上

会社概要

設立	1972年
資本金	4000万円
従業員数	220人
売上高	32億円(2021年6月期)

所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄1150
TEL	0865-64-5111
FAX	0865-64-5066
URL	https://www.akase.co.jp



ワンポイント

高付加価値家具に転換した好例

経済産業省の工業統計調査によると木製家具製造業の製造品出荷額は2018年が8097億円。2002年の1兆366億円から約2割縮小した。クローゼットを備えた住居の増加、婚姻数の減少など婚礼家具主体のメーカーは厳しい状況だ。AKASEは婚礼家具からウォールナットを使ったテーブルなど高付加価値家具に製品構成を転換した好例といえる。2020年にはベッドの生産も開始し、品ぞろえのさらなる拡大を進めている。

代表取締役社長
ふじ い ゆき はる
藤井 幸治さん

